

# 会 議 録

会 議 名	第55回野田市市民活動支援センター運営協議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況（令和6年10月1日現在）について（公開）</p> <p>(2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況（令和6年7月～9月）について（公開）</p> <p>(3) 令和6年度市職員向け協働のまちづくりセミナー（市民協働の推進に関する職員研修）の開催結果について（公開）</p> <p>(4) 学習会（NPO法人）の開催結果について（公開）</p> <p>(5) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2024）の開催結果について（公開）</p> <p>(6) 第5回こまめカフェの開催結果について（公開）</p> <p>(7) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民活動元気アップふえすたの開催について（公開）</p> <p>(8) 令和7年度実施分野田市市民活動団体支援補助金について（公開）</p> <p>(9) 野田市制施行75周年記念冠事業の募集について（公開）</p>
日 時	令和6年10月28日（月）午後2時から午後3時45分まで
場 所	野田市役所議会棟4階 委員会室
出席者氏名	<p>会 長 竹澤 勇司</p> <p>副会長 立山 喜弘</p> <p>委 員 岩井 勝治、芝田 栄太郎、名代 ちよ子、</p>

	<p>神山 憲次郎、矢作 勝美</p> <p>事務局等 副市長 今村 繁</p> <p>市民生活部長 宮澤 一弥</p> <p>市民生活課長 須賀 良平</p> <p>市民生活課長補佐 岡田 敦子</p> <p>市民生活課コミュニティ係長 高梨 清美</p> <p>市民生活課コミュニティ係主査 山田 典生</p> <p>市民活動支援センター長 関口 一夫</p> <p>主任コーディネーター 釜田 正雄</p> <p>コーディネーター 荒井 ハツヨ</p> <p>コーディネーター 渡邊 勝男</p> <p>コーディネーター 松本 貴美江</p>
欠席委員氏名	加藤 眞智子、北倉 恵美子、辻 朝子
傍聴者	無し
議事	第55回野田市市民活動支援センター運営協議会の会議の概要は、次のとおりである。
<p>1 開会</p> <p>事務局から開会を宣言。</p> <p>会議の成立について報告。</p> <p>会議録作成のため、録音をすることについて了解を得た。</p> <p>2 副市長挨拶</p> <p>今村副市長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>議長（竹澤会長）</p> <p>報告事項(9)から審議をすることについて了承を求めた。</p> <p>各委員</p> <p>特になし</p> <p>報告事項(9) 野田市制施行75周年記念冠事業の募集について</p> <p style="text-align: right;">(資料 報告 9))</p>	

議長（竹澤会長）

報告事項(9)について、説明を求めた。

今村副市長

報告事項(9) 野田市制施行75周年記念冠事業の募集についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(9)について、委員に意見を求めた。

芝田委員

応募があった全てを市民活動支援センター運営協議会で審査するのか。

今村副市長

事前審査ということではないが、先ほど説明したような反社会性など、そういうことは市民生活課でチェックした上で、その説明付きでお示しする。

芝田委員

事務局で多少の精査をして、上がってきたものを全て審査するという解釈でいいか。

今村副市長

そのとおりである。問題があるものについてはここを少し、ということで審査いただきたい。

神山委員

例えば同一団体で夏と秋に講演会を実施する場合、4月に応募を締め切って1年分を審査という考えか。それとも随時提案があってもOKということか。

今村副市長

同じ団体で夏と秋に講演会ということが最初から分かっていて、一度に申請いただければ両方まとめて審査するし、別々に申請があれば別々に審査する形になる。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(9)については、以上とする。

報告事項(1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況（令和6年10月1日現在）について

（資料 報告 1）－1～3）

報告事項(2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況（令和6年7月～9月）について

議長 (竹澤会長)

報告事項(1)、(2)について、説明を求めた。

関口支援センター長

報告事項(1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況(令和6年10月1日現在)についてを説明した。

松本コーディネーター

報告事項(2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況(令和6年7月～9月)についてを説明した。

議長 (竹澤会長)

報告事項(1)、(2)について、委員に意見を求めた。

立山副会長

相談件数の内訳で、助成金関係の件数が令和5年度と6年度で大きく違うが、何か理由があるか。

釜田主任コーディネーター

特に助成金関係の相談が19件少なくなったという理由だが、登録団体の助成金要望が少なくなっていること、相談については、来所相談の他にメール相談をやっているため、そちらの相談に振り分けられているということがある。全体を通して、登録団体の助成金の要望数が少なくなっていると考えている。

議長 (竹澤会長)

ほかに意見がないようなので、報告事項(1)、(2)については、以上とする。

報告事項(3) 令和6年度市職員向け協働のまちづくりセミナー(市民協働の推進に関する職員研修)の開催結果について

(資料 報告 3))

議長 (竹澤会長)

報告事項(3)について、説明を求めた。

関口支援センター長

報告事項(3) 令和6年度市職員向け協働のまちづくりセミナー(市民協働の推進に関する職員研修)の開催結果についてを説明した。

議長 (竹澤会長)

報告事項(3)について、委員に意見を求めた。

岩井委員

参加人数が 89 人となっているが、参加対象者の大体何割か。参加人数が少なく、せっかくの研修の機会で、職員に関心が余り高くないと感じた。

関口支援センター長

研修会場の大きさもあり、各回 50 人前後で考えていたので、それに近い数字になったと考えている。

宮澤市民生活部長

係長相当職以上の人数は、この場ではっきりと分からないが、こういった取組は今回が初めてで、今後も継続的に続けていくことを考えている。次回は、未受講者を中心になろうかと思うが、裾野を広げていく考えでいる。係長相当職の人数は確認して、後ほどお答えしたい。

議長（竹澤会長）

この研修スタイルで、職員の方もいろいろと勉強していくということによろしいか。

宮澤市民生活部長

そのとおりである。以前から、市民活動団体の皆様との協働は大きなテーマだったが、なかなか進んでいないという実情があった。既にこういった取組をしている事例も紹介をしていたが、なかなか自分の業務に落とし込みができないということで、まずは職員の意識を変える、土台を作っていくということが大事かなということで、今回は人事課人事研修係での職員研修の一つとして進めたものである。今後も、この形で進めていこうと思っている。

岩井委員

これから行政の客体はどんどん広がると思うし、行政の限られた資源の中でどれだけ成功できるか。市役所の力だけでは相当難しいと思うので、どうやって市民の皆さんと一緒にまちを盛り上げていくか、いいまちにするかというのは大切だと思っているので、申し上げた。

議長（竹澤会長）

講師の発言で「ダウンローディングしながら話を聞いている自分に自覚的になり」など、専門用語が出てくるところを見ると、市職員も分からないことがたくさんあると思う。私どもも御指導いただき、市職員も勉強していただきながら、新しいタイプの今までなかったことにこれから挑戦していくという意識が多分出てくると思う。

私どもは市民の代表という形で参加させていただいているが、市職員が新しいことに挑戦していくことは必要なことだと思うし、実際にこういう研修をやっていることを公表していただくことが、市に対する見る目も変わっていくと思う。

名城委員

とてもいいことだと思う。係長相当職以上ということだが、是非一般職員にも広げていただきたい。この研修を受けた後の職員の感想を聞きたいと思った。研修を受けて終わりではなく、その後が大事で、一般職員にも広げていただければと思う。

議長（竹澤会長）

研修の感想は、市がきちんと方向性を見つけていると思うので、できましたら委員の皆さんで拝見させていただくという形が取ればよいと思う。

名城委員

余談だが、野田市手をつなぐ親の会 キャラバン隊「まめっ娘」は、市役所新人職員の研修の一コマをやらせていただいている。教職員の研修会では、感想文を頂いたりできる。私たち講演をする方からしても、職員の方がどんなふうに関心を持ったかというのを聞けると、次もお役に立てるので、少し広げていただけたらうれしいと思う。

立山副会長

研修をして認識を統一されることは、すごくいいことだと思う。市職員も、係長以上だけではなく幅広く勉強してもらうことはいいことだと思う。ただ、市民活動団体がまちづくりにどんなことで関係しているのか、などを少し勉強されて、むしろ市民活動団体に協力を要請して、市民活動団体を利用する、くらの市の指導が必要かと思う。あと、行政に関係することだったら、拾い上げて活動していったらもっといいのかなと思う。

是非、その辺の視点、市民活動の方にも力を入れてほしいと思う。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(3)については、以上とする。

報告事項(4) 学習会（NPO法人）の開催結果について

（資料 報告 4）

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、説明を求めた。

荒井コーディネーター

報告事項(4) 学習会（NPO法人）の開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、委員に意見を求めた。

立山副会長

参加者の感想の中で「耳が痛い内容でした。団体の内容を見直さないといけない」というのがあるが、差し支えなければ、どんなことを見直さないといけないか分るか。

荒井コーディネーター

NPO法人の方だったと記憶しているが、具体的に細かく聞いていない。資料を見ると、私も自分の市民活動団体を抱えているから、ここは耳が痛いなどいうのがよく分かるような資料だった。資料はたくさん印刷して、まだ在庫があり、差し上げることも可能なので、見ていただければと思う。

岩井委員

参加者の感想の3番目にあるチェックシートは、講師がお使いになっているものだと思うが、モデルにそのチェックシートを使うのは、難しいのか。

荒井コーディネーター

是非団体に持ち帰って、使っていいと話されていた。

岩井委員

私たちの会に登録している団体の皆さんに、やってみたらどうですかというのはどうか。

荒井コーディネーター

すぐできるような内容だったので、検討してみる。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(4)については、以上とする。

報告事項(5) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2024）の開催結果について

（資料 報告 5）

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、説明を求めた。

荒井コーディネーター

報告事項(5) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2024）の開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、委員に意見を求めた。

これは、今後同じように毎年続けていくという形でよろしいか。

釜田主任コーディネーター

今回、野田夏まつり躍り七夕が第70回の記念の年ということがあったのと、本町通りで踊ってみたいという野田よさこい躍り協議会からの要望があったので、実行委員会に要望したところ、今回、実現ができた。

来年度以降については、野田よさこい躍り協議会、参加した団体からの意見をお聞きしたところ、先ほども説明であったように、道路が広くて電線もないので、旗の共演、踊りの流しもできるということだった。ただ、どうしてもよさこいソーランには音響が必要で、踊りの場所がけやき夢ロードから本町通りが変わった時点で、実行委員会の予算作成の後だったので、経費の負担の課題があった。ただ、興風会館事務局に御協力いただいて、控室を取ってもらったこともあって、来年度以降も条件を整えば、是非ここでお願いしたいという要望は野田よさこい躍り協議会から承って、PR推進室にお願いをしている。

今後、実行委員会を通じて具体化していくと考えている。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(5)については、以上とする。

報告事項(6) 第5回こまめカフェの開催結果について

（資料 報告 6）

議長（竹澤会長）

報告事項(6)について、説明を求めた。

渡邊コーディネーター

報告事項(6) 第5回こまめカフェの開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(6)について、委員に意見を求めた。

立山副会長

第6回こまめカフェの開催は来年3月だが、今回は振り返りを中心に開催し

ていくのか。そうすると、参加者は今回参加した人たちが中心になるのか。

渡邊コーディネーター

振り返りの会は、今回の第5回こまめカフェに参加いただいた皆様と、感想等を含めて開催した。

関口支援センター長

第6回は第5回とは別に開催し、参加団体の募集をかけたところ、既に5団体の申込みが入っている。振り返りの会は、9月25日に行った第5回こまめカフェについて、皆さんどういう感想をお持ちでしたかとか、何か意見ありますか、ということで、再度集まってもらった。

矢作委員

参加者として行ってみて、カフェの状況を見てみたい。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(6)については、以上とする。

報告事項(7) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民活動  
元気アップふえすたの開催について

(資料 報告 7) - 1~4)

議長（竹澤会長）

報告事項(7)について、説明を求めた。

釜田主任コーディネーター

報告事項(7) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民  
活動元気アップふえすたの開催についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(7)について、委員に意見を求めた。

立山副会長

すばらしいパンフレットである。見てすぐ分かるし、会場のレイアウトもきちんとできており、スタンプの位置も分かりやすいし、いいと思う。スタンプラリーの景品も充実して、これで頑張る人もいるのではないかと思う。

お伺いしたいのが、我々の団体は同じ部屋の中で3団体あるが、各部屋の皆さんの意向でスタンプの位置を変えてもいいか。例えば、入口ではなくて部屋の真ん中に置くとか、各部屋の判断でやってよろしいか。

釜田主任コーディネーター

スタンプラリーは、各部屋の中で参加団体の皆さんと協議の上で決定してやっていたので、よろしく願いしたい。

議長（竹澤会長）

カラーを非常に効果的に使っていて、見やすい印象を受ける。カラーを使って御苦労もあるかと思うが、もっとこういうふうにしたけれど、こういうことでできないなど、といったことがあったら、参考に教えていただきたい。

釜田主任コーディネーター

今回、カラー印刷にするということで、当初はもう少し色を多く使って分かりやすい色彩でやろうと思ったが、視覚障がいを持った方にも分かりやすくという以前のアンケートの御意見もあったので、文字の大きさだけではなく、下地を白にするなど、余り刺激のない色ということで、ユニバーサルデザインという話をしていたが、そんな考えがあった。

結果、事務局としても出来栄えについてはよかったと考えている。

名代委員

本当に御配慮ありがとうございます。

駐車場だが、参加団体の人の車は、臨時駐車場に置いた方がいいのか。

釜田主任コーディネーター

参加団体は、基本的に三つのイベントとも同じだが、元気アップふえすたについては、例年、東葛飾研修所の方ということでお願いしており、ただ、高齢の方もいるので送り迎えをしながら、という形で御不自由をかけるが、基本的に車は東葛飾研修所をお願いしている。ただ、高齢者の送迎や機材の持込みについては、そのときだけは進入は可能という形にしている。

名代委員

パンフレットの配付はどのように行われるのか。

釜田主任コーディネーター

公共施設の内訳では、公民館、図書館、コミュニティ会館、子ども館。事務局での配布もあるが、参加団体に原則1団体55部ほどお願いして、それぞれの会員の方による手配りでの案内もさせていただき、55部で21団体なので、約1,000部は各参加団体の手配りでの案内をしていただいている。パンフレットは野田市ホームページにも掲載しており、イベントカレンダー、市民活動支援センターのページにも掲載して周知をしている。それから、まめバスにはパンフレットの表紙をパウチして窓ガラスに貼るとともに、運転席の横につるし

て持ち帰りできるような形など、考えられることは全てやっている状況である。委員の皆様につきましても、是非PRをお願いしたい。のだ市報についても、10月15日号の表紙を飾ることができ、大きくPRできているが、市報は自治会経由での配布とともに、野田市ホームページにも掲載されている。

名代委員

昨年、中学生のボランティアがたくさん来ていただき、若い人が結構入っていたが、今年も中学校にボランティアなどの声かけをしているのか。

釜田主任コーディネーター

市民ふれあいハートまつりの方で、パンフレットの最後にある協力団体のところに「市内小中学校のみなさん」ということで、学校名までは特定できないが、昨年と同じように協力していただくと聞いている。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(7)については、以上とする。

報告事項(8) 令和7年度実施分野田市市民活動団体支援補助金について

(資料 報告 8) - 1 ~ 3)

議長（竹澤会長）

報告事項(8)について、説明を求めた。

須賀市民生活課長

報告事項(8) 令和7年度実施分野田市市民活動団体支援補助金についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(8)について、委員に意見を求めた。

立山副会長

具体的にスケジュールはどうなっているか。

須賀市民生活課長

令和6年11月1日から応募受付を開始し、令和7年1月31日まで募集をする。その後、令和7年2月中旬に補助金審査会を予定しており、審査会を経て補助金の交付団体を決定していくスケジュールを考えている。

議長（竹澤会長）

募集期間が3か月間ということに関し、期間が短いなどの細かい点の問合せはあるか。

須賀市民生活課長

募集期間は今申し上げた通りだが、この期間に関わらず、制度の説明は市民活動支援センターを中心にやっており、期間を変えてほしいといった意見は特に聞いていない。

資料 21 ページの表の中にある交付回数の欄で、組織基盤強化支援の記載を読み上げると「1団体1回までとし、3年を限度」と記載しているが、1団体1年限定とも捉えられる表現となっており、その後に3年を限度にと続いているが、もう少し分かりやすく表現を改めたいと考えている。

神山委員

会員数が、何人以上でないといけないというのかあるのか。

須賀市民生活課長

団体の構成員が5人以上ということをお願いしているので、5人以上の団体であれば補助金の申請ができることになっている。

高梨係長

資料 報告 8) - 2として令和7年度実施分野田市市民活動団体支援補助金募集要項を配付しているが、1ページに対象団体の要件等が書いてある。また、6から7ページには応募方法、補助制度の説明会等を記載している。

議長（竹澤会長）

この補助金が始まってから7年たつ。始まった頃は、市民活動支援センターまで来て、一般の方が質問し、申請手続に関し戸惑っていることがよくあったが、現在はいかがか。

釜田主任コーディネーター

市民活動支援センターにおいて、助成金学習会を5月、10月に実施しているが、民間の助成金と合わせて、市の補助金についても制度の概要、スケジュール等を説明している。また、制度の説明会の他に、申請書の書き方の具体的な支援も市民活動支援センターでやっている。既に5月、10月の助成金学習会に参加した団体で、市の補助金を申請したいという要望のある団体が出てきており、今後申請してくると思われるので、引き続き申請の書き方等について支援をしていきたい。以前は、市民活動支援センターに話を通さずに、直接市民生活課に申請した例が若干あったが、最近は全ての団体が市民活動支援センターの支援を受けて申請をしている。

議長（竹澤会長）

市民にとっては、市民活動支援センターに行けば、全て指導、説明もしていただけるということが定着してきているので、安心して取り組めると考えているが、逆に、まだ分からない人がいるのかなと思ったのでお聞きした。

釜田主任コーディネーター

市民活動支援センターでは、個々の相談について具体的に説明しており、市民活動支援センターと市民生活課の役割分担も大事になっている。市民生活課では申請書の受付から審査の手続きを、市民活動支援センターでは申請までのお手伝いを中心にして、審査には携わらない。当初は、市民活動支援センターの職員も審査会のメンバーに入っていた。実際にやってみると、都合が悪いということですぐに変更して、市民活動支援センターは申請の支援に専念し、受付、審査会は市民生活課に完全に分けた。もちろん連携は取っており、市民活動支援センターに申請すると勘違いされる方も中にはいらっしゃるが、そういう方にも丁寧に御説明しているので、大丈夫だと思う。もし、お困りの方がいらっしゃったら、市民活動支援センターに紹介いただければ、丁寧に相談に乗って支援してまいりますので、よろしくお願ひしたい。

今回の募集要項の変更点として、プレゼンテーションのやり方についての説明をということで、募集要項の8ページに採択団体の選考方法というのがあって、プレゼンテーションの時間 25 分の時間配分として、団体の活動内容補助金や活用計画などの説明が 10 分、質疑応答 15 分と具体的に細かく書くことによって、プレゼンテーションの概要が募集要項の中でも分かった方がいいということで、今までは口頭で説明していたが、募集要項に明記することによって少しでもプレゼンテーションがスムーズに行くような形にということと、細かい時間の配分と内容については一番重要で、審査会の一番の審査基準になってくるので、個々に丁寧に御説明していきたいと思っている。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(8)については、以上とする。

宮澤市民生活部長

報告事項(3)において岩井委員から御質問のあった、まちづくりセミナーの参加者の割合だが、係長相当職以上の3割弱だった。今後も継続して実施していきたいと思っている。

議長（竹澤会長）

参加対象職員を係長相当職以上に限定しているが、将来的に係長相当職以外

に広げる可能性はあるのか。

宮澤市民生活部長

係長は管理職とは言わないが、マネジメントする立場の人が、ある程度きちんと意識を持っていただきたいということで実施しているので、係長相当職以上を一通り実施した上で、係長以下に広げていくということはあると思う。

議長（竹澤会長）

以前、副市長から、市職員が協働のまちづくりがよく分かっていないという話があった。今は、こういう勉強をされており大丈夫だと思うが、そういうことも踏まえて、内容もいろいろ変えていくのだろうが、その辺はいかがか。

宮澤市民生活部長

どのようにやっていったらいいかという、糸口すらまだ見つかっていないと思う。繰り返しになるが、部下が分かっていたとしても、上司が分かっているとそこで潰れてしまうということがあるので、順番として、まずは係長相当職以上からということで実施した。1回実施したから、これまで分からなかったものが全て分かることはないので、繰り返しやっていくことが必要になると思う。今回は外部講師を招いたが、実際にやっている自治体の方に来てもらって、実体験として話をしてもらおうなど、やり方はいろいろだと思う。研修をやるのが目的ではなく、協働を成し遂げるのが目的なので、ただ研修をやりました、で終わるのでは意味がなく、今後、実効性のある形でやり方を工夫しながら、人事課とも協力しながらやっていければと思っている。

岩井委員

年寄りのたわ言として聞いていただきたい。私は、市役所を定年になって何十年もたつが、当時の市長が、市制施行何周年かのときに、みどりのふるさとづくりを実践するのに、市民の皆さんに苗木を差し上げたいという話をされた。いいことだと思ったが、どうやって配ろうかなという話があって、ボランティアを募ってお願いしたらいいのではないかと、ふるさとづくりの考え方をPRしながら参加してもらったらいいのではないかと、という話をした。私が定年になったら、ボランティア団体を作ってくれと言われて、植樹に関する団体を立ち上げたことを思い出す。

それから、国際化の話で、今から約30年前に、これからは国際化で外国の方が日本に来て住む事例が多くなる。それと、姉妹都市の話が盛り上がった。そのとき、いろいろなところに行って情報を集めてきた。姉妹都市は、難しい

話があり、結局実現しなかったが、外国の方が大勢住むようになって、何が必要かという話があって、市として何をやるか。国際交流協会を作って、海外生活が長かった民間の人とか、外国人を受け入れたことがある人の経験を生かして、事業を展開したらいいのではないかとということを申し上げて、今の国際交流協会ができた。協働のまちづくりができたのではないかと思う。

参考までに、そんなことがありました。

高梨係長

次回の市民活動支援センター運営協議会の日程について、令和7年1月中旬を予定している。

議題は、元気アップふえすたの開催結果について、市制75周年冠事業の実施要領等について、などを予定している。

議長（竹澤会長）

会議の閉会を宣言した。